

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上

(1) 新教育課程の編成

学習指導要領改訂に向け、始動する。教育課程PT（校長、教頭、両首席、指導教諭、教務主任等）を立ち上げ、教育課程の編成作業に入る。

- ア 現行の教育課程の課題を洗い出し、課題を解決する教育課程の編成作業を実施する。
- イ 次期学習指導要領改訂の内容を組み入れた教育課程の編成作業を実施し、案を作成する。

(2) 確かな学力の育成

- ア 基礎学力を身につけるための山田BT（ベーシック・タイム10分間の朝学習）を継続発展させる。
- イ 授業での取組み（最初の5～10分に小テストを実施等）及び山田BT等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。
- ウ 英文法基礎及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
- エ 国語表現等において少人数展開授業を実施する。
- オ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。
- カ 課外活動として、希望する生徒に自由研究に取り組みせ、校外での発表を通して主体的な学びを体験させる。

(3) 授業力の向上

授業充実PTを核に「ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして授業実践する。校内のICT環境を整備したことにより、ICTを活用した授業研究を推進し、興味関心を高め知識の習得を効率化する。また、アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、表現）の向上を図る。

- ア ICTを活用した授業研究を推進する。
- ※ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。
- ※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合80%以上の水準を保つ。
- イ アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。
- ※アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間1回以上行う。
- ※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合80%以上をめざす。
- ウ 「ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。
- ※研究授業・公開授業の実施回数を年間10回以上とする。

- エ 授業力向上の取組み及びBT学習（英語と国語の朝の10分間学習）とも連動させて、漢検・英検における2級・準2級の合格者を増加させる。
- ※英検（2級10名、準2級100名）及び漢検（2級30名、準2級100名）の合格者を増加させる。
- オ 授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。
- ※中期完成年度には国公立大学合格者数を30名に、関関同立大合格者数を180名以上にする。

(4) 3年間を見通したキャリア教育

- ア 選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
- イ 補習・講習（授業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。
- ※学力生活実態調査を各学年、年2回実施し、その分析会を行う。
- ※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年1回以上実施する。
- ウ 卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。
- ※卒業生によるキャリア講演会を実施する。
- エ 1年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。

(5) グローバル人材の育成

- ア 語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校であるBentleigh secondary collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。

- ア 部活動加入率を90%以上とし、それを継続発展させる。（平成29年度83.7%）

(2) 生徒会活動の活性化

- ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。

(3) 生徒指導の強化

- ア 遅刻指導を継続強化する。
- イ 服装・頭髪指導を継続強化する。
- ウ 交通安全指導を継続強化する。

(4) 校内美化の推進

- ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。

(5) 人権尊重の教育の推進

- ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。

(6) 安全で安心な学びの場づくり

ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。問題事象が発生した時は、ケース会議により早急に対策を練り実行する。

イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。

(7) 始業式・終業式で自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒め称える場とする。

ア 部活動の成果等を伝達表彰するとともに校歌を全員で斉唱する。(毎昼休みに校歌を流す)

3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。

ア 学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。

※校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。

1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学の進路学習、2年春は修学旅行の事前学習等。3年春は最高学年として学年・クラスの団結づくり等。

イ 各分掌と各学年のバランスを図る。

ウ 安全衛生委員会の活性化により、働き方改革を図る。

(2) 保護者・地域との連携

ア 小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高杯、山高カップなどを継続発展させる。

イ 地域の行事へ積極的に参加する。地域連携を深める。

(3) 教育活動の情報発信

ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(教職員)「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」の肯定的回答率は90.2%、「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」は80.0%、「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」は78.4%、「ICT機器を授業に活用している」は対前年度比(以下、同様)で87.8%→94.0%へ6.2%向上しており、授業改善の取り組みは成果をあげていることが読み取れる。</p> <p>(生徒)「山田高校に入学してよかった」90.6%、「学校の授業に満足している」69.6→74.2%へ4.6%向上、「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」85.7→91.1%へ5.4%向上、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」62.4→74.1%へ11.6%向上と、学校や授業への満足度が高いことが読み取れた。</p> <p>(保護者)「山田高校に入学させてよかった」95.0%、「学校行事は積極的に参加できるよう工夫されている」95.48%、「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」90.3%、「先生は子どもの学習評価を適切・公平に行っている」88.4%と、本校教育活動への満足度が高いことが読み取れた。</p> <p>これらのことから保護者が本校のめざす方向を理解し、それに納得していただいていることが読み取れる。今後、更に授業改善に取り組み、学力向上・人間性の育成、そして何よりも生徒・保護者が希望する進路の実現を図る。</p>	<p>*実施日 第1回(7/4) 第2回(11/21) 第3回(2/4 予定)</p> <p>第1回(7/4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学を実施。生徒が落ち着いて授業に取り組んでおり、授業内容も様々な工夫がされていると高い評価を得た。 生徒や保護者の満足度が高いことは非常によいことだという意見をいただいた。さらに授業改善に取り組んで欲しいという要望が出された。 <p>第2回(11/21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTがしっかりと活用されており解りやすい授業が展開されている。ベーシックタイムによる基礎学力の定着など、学校が取組んでいる成果が見てとれるとの評価をいただいた。 生徒が生き生きと学校生活を送っていることがよくわかる。こうした素晴らしい校風を続けていながら、さらに発展して欲しいという要望が出された。 <p>第3回(2/4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ベーシックタイムについては、3年生の75%が「3年間やってよかった」と回答している。検証と工夫を重ねながら、さらなる基礎学力の向上や学習習慣の定着を図っていただきたいと要望があった。 授業見学中のプレゼンテーションでは、さすがは高校生と思えるすばらしい発表だった。質疑応答や意見交換を増やせばもっと充実した内容になるであろうとのご意見をいただいた。 山田高校は、山一夏祭、地域協フェスティバル、山一公民館文化祭など、様々な取り組みに参加することで、地域との関わりを大切にしてくれている。来年度からはSDGsをテーマとする探究活動も新たに始まるということなので、よりいっそう教育活動の充実がすすむことを期待しているとの評価をいただいた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育力の向上	(1) 新教育課程の編成	ア・現行の教育課程の課題を解決する教育課程を検討する。 イ・次期学習指導要領改訂内容を組み入れた教育課程案を検討する。	ア・現行の教育課程の課題を解決する教育課程を編成する。 イ・次期学習指導要領改訂内容を組み入れた教育課程案を編成する。	アイ・現行の教育課程の課題を解決し、次期学習指導要領の「総合的な探求の時間」において、来年度から『地球規模の課題 SDGs』をテーマとする探究活動を行う教育課程を構築することができた。(◎)
	(2) 確かな学力の育成	イ・授業での取組み及び山田BT等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 オ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 カ 希望する生徒に自由研究に取り組ませる。	イ・山田BTアンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を5%以下にする。(平成29年度6.8%) オ・年間の利用者数4500人以上をめざす。(平成29年度利用者数4287人)平成30年2月現在 カ・生徒に校外での研究発表を体験させる。	イ・学校教育自己診断(教員)「家庭学習を増やす取り組みを行っている」は平成29年度71.4%→平成30年度71.2%であった。また、山田BTアンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合は、12.2%となった。(△) オ・図書館の利用延べ人数は3829人であった。(△)
	(3) 授業力の向上	ア・ICTを活用した授業研究を推進する。	ア・ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。 ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合80%以上の水準を保つ。(平成29年度80.3%) ・学校教育自己診断の(教職員)「ICT機器を授業に活用している」の肯定回答率(以下、同様)90%を確保する。(平成29年度87.8%)	ア・ICTを活用した授業を全教科で複数回実施することができた。また、ICT教材の共有化を進め、教材を更に発展させることができた。(◎) ・授業アンケートにおける「知識・技能が身に付いた」の平均肯定割合は平成29年度80.3%→81.9%(1.6%向上)という結果であった。(◎) ・学校教育自己診断(教職員)「ICT機器を授業に活用している」平成29年度87.8%→94.0%(6.2%向上)という結果であった。(◎)

府立山田高等学校

1 教育力の 向上		<p>イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。</p> <p>ウ・「ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。</p> <p>エ・授業力向上の取組み及びBT学習（英語と国語の朝の10分間学習）とも連動させて、漢検・英検における2級・準2級の合格者を増加させる。</p> <p>オ・授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。</p> <p>イ・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。</p> <p>ウ・卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。</p> <p>エ・1年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。</p> <p>ア・語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校であるBentleigh secondary collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。</p>	<p>・学校教育自己診断の（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクトを活用している」90%をめざす。（平成29年度85.7%）</p> <p>イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間1回以上行う。</p> <p>・学校教育自己診断の（教職員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」70%をめざす。（平成29年度68.3%）</p> <p>・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合80%以上をめざす。（平成29年度76.5%）</p> <p>ウ・研究授業・公開授業を年間10回以上実施する。</p> <p>エ・英語検定2級の合格者数を30名（平成29年度20名）に、準2級の合格者を40名（平成29年度34名）にする。</p> <p>・漢字検定2級の合格者数を10名（平成29年度4名）に、準2級の合格者を30名（平成29年度22名）にする。</p> <p>オ・国公立大学合格者数を15名以上（平成29年度10名）に、関関同立大合格者数を160名（平成29年度158名）にする。</p> <p>イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施する。</p> <p>・学力生活実態調査を各学年、年2回実施し、その分析会を行う。</p> <p>・全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年1回以上実施する。</p> <p>ウ・卒業生等によるキャリア教育の機会を年1回以上持つ。</p> <p>エ・2大学以上と連携して大学見学を実施する。</p> <p>ア・姉妹校であるBentleigh secondary collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。なお、交流する生徒数は20名をめざす。</p>	<p>・学校教育自己診断（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクトを活用している」平成29年度85.7%→91.2%（5.5%向上）という結果であった。（◎）</p> <p>イ・アクティブ・ラーニング等の生徒主体の授業を全教科で実践した。班やペアでの協議・発表、教え合い、学び合い等の生徒主体の授業ができてきている。（◎）</p> <p>・学校教育自己診断（教員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」は平成29年度68.3%→69.2%（0.9%向上）。また「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」は平成29年度78.0%→78.5%（0.5%向上）。「授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」は平成29年度80.0%→82.0%（2.0%向上）という結果であった。（○）</p> <p>・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」は平成29年度62.4%→74.1%（11.7%向上）という結果であった。一方、授業アンケートで「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」の平均肯定割合は74.2%→76.5%（2.3%向上）であった。（◎）</p> <p>・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合は76.5%→78.4%（1.9%向上）という結果であった。（△）</p> <p>・上記の結果から、生徒を主体とした授業の取組みを進めるべく教員の意識は確実に上がっている。生徒の学力（思考力・判断力・表現力）の向上に向けて一層取組みを推進する。</p> <p>ウ・研究授業を7回（初任者研究授業3回、インターミディエイト及び10年目教員の研究授業4回）公開授業3回、計10回について、授業観察・研究協議等により授業改善に取り組むことができた。（○）</p> <p>エ・英語検定2級の合格者数は16名、準2級の合格者は31名であった。（△）</p> <p>・漢字検定2級の合格者数は2名、準2級の合格者は16名であった。（△）</p> <p>オ・国公立大学合格者数は6名、関関同立大合格者数は123名であった。なお、センター入試の受験者は206名であった。（△）【3/29現在】</p> <p>イ・課業日の早朝・放課後や土日の講習に加え、各学期の成績結果をもとに長期休業中に指名補習や希望講習を実施。進路指導部が中心となり組織的・計画的に実施することができた。（◎）</p> <p>・学力生活実態調査を各学年、年2回実施した。それを受け、各学年が業者を交えて分析会を行った。（○）</p> <p>・全国レベルの実力考査を、3年は6/16、2年と1年は9/29に実施し、進路指導に役立てている。（○）</p> <p>ウ・本校同窓会と連携し、11/21に3年生、2/6に1・2年生に対して、卒業生によるキャリア教育講演会を実施した。（○）</p> <p>エ・11/16に1年次の進路校外学習（関西大学、関西学院大学、同志社大学、龍谷大学、甲南大学）を実施し、これを機に進路目標を持たせて意欲的に学習に取り組ませた。（◎）</p> <p>ア・今夏はメルボルンにあるBentleigh secondary collegeから生徒20名、教員4名が来校し、交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成することができた。（◎）</p>
-----------------	--	---	---	---

府立山田高等学校

2 豊かたくましい人間性の育成	<p>(1) 部活動や特別活動を通じて、豊かたくましい人間性の育成</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化</p> <p>(3) 生徒指導の強化</p> <p>(4) 校内美化の推進</p> <p>(5) 人権尊重の教育の推進</p>	<p>ア・部活動への積極的な参加を促す。</p> <p>ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。</p> <p>ア・遅刻指導を保護者等と連携・協力して継続強化する。 イ・服装・頭髪指導を継続強化する。特に長期休業あけの指導を強化する。</p> <p>ウ・交通安全指導を継続強化する。全教職員による登校時立番を計画的に実施する。</p> <p>ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>ア・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。</p>	<p>ア・部活動加入率 90%を継続発展させる。(平成 29 年度 83.7%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上(平成 29 年度 88.4%)をめざす。</p> <p>ア・遅刻総数前年度比 5%減。</p> <p>イ・服装・頭髪違反者なし</p> <p>ウ・交通マナー(規範意識)を高め、事故を未然防止する。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率 90%以上(平成 29 年度 94.9%)</p> <p>ア・毎日の清掃活動を徹底させる。 ・特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に重点的に取り組む。 ・終業式後に一斉に大清掃(年 3 回)を行う。</p> <p>ア・人権研修会(生徒参加型)を年 1 度以上実施する。</p>	<p>ア・新入生歓迎会でのクラブ紹介、仮入部期間の設定等により、入部率は平成 29 年度 83.7%→86.4%(2.7%向上)であった。今年度は近畿大会に陸上競技部、ソフトテニス部、水泳部が出場を果たした。文武両道をめざし、今後も入部率向上を図っていく。(△)</p> <p>(参考)学校教育自己診断の(生徒)「部活動に積極的に取り組んでいる」84.4%→85.5%(1.1%向上)と高い数値であった。</p> <p>ア・(生徒)「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率は平成 29 年度 88.4%→91.9%(3.5%向上)であった。(◎)</p> <p>ア・遅刻総数は 1597(平成 29 年度同時期 1969)。昨年より 18.9%減である。(◎)</p> <p>イ・生徒指導部と生徒会部が連携して服装指導を実施した。生徒主体で、生徒会執行部・風紀委員が定期的に正門・下足室前に立ち、夏服期間、合服期間、冬服期間を周知徹底。生徒たちの意見を取り入れ、生徒たち自ら規律を守る仕組みを整えた結果、服装違反者はいない状況となった。(◎)</p> <p>ウ・教職員が年間 7 回、早朝に 2 週間、10 か所に分かれてポイントに立ち、校外巡視を実施。生徒の交通マナー(規範意識)を高め、事故を未然に防止することができた。(◎)</p> <p>・(生徒)「服装、頭髪など学校規律についての指導を守っている」の肯定率は 94.1%であった。(◎)</p> <p>ア・担当教員の意識を高め、毎日の清掃を徹底させた。特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの清掃を徹底した。終業式後等に一斉に大清掃(年 3 回)を実施することができた。(○)</p> <p>ア・人権研修会を 3 年生は 9 月 28 日にブラックバイトやブラック企業について、11 月 7 日に 1 年生がデートDVについて、2 年生は 2 月 13 日にジェンダーとデートDVについて自ら考える機会とした。(○)</p>
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	<p>(1) 組織力向上:常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。</p> <p>(2) 保護者・地域との連携</p> <p>(3) 教育活動の情報発信</p>	<p>ア・学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。</p> <p>ウ・安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図る。</p> <p>ア・小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」を継続発展させる。</p> <p>イ・地域との連携を深める。</p> <p>ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p>	<p>ア・校外学習を、入学から卒業までの 3 年間を見通し系統的・計画的に実施する。 ・平成 30 年度においては、1 年(2 回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学等の進路学習、2 年春は自主性を重んじた修学旅行の事前学習、3 年春は最後の体育祭に向けたクラスの団結力を高める取組み。</p> <p>ウ・全校一斉定時退庁日等の徹底。 ・各部ノークラブデーの徹底。 ・超過勤務月間 80 時間以上の教職員に対する声掛け、産業医面談の実施。 ・上記取組みにより長時間勤務の総時間数を対前年度比減する。</p> <p>ア・小学生講座 50 名以上、中学生講座 400 名以上の参加をめざす。(平成 29 年度小学生講座 73 名、中学生講座 305 名)</p> <p>イ・地域協議会等へ 10 回以上参加する。</p> <p>ア・学校説明会を年間 20 回以上実施する。</p>	<p>ア・校外学習を卒業までに 4 回(1 年は 2 回、2・3 年は各 1 回)を計画的に実施した。1 年春は仲間づくり、秋は大学見学等の進路学習。2 年春は修学旅行の事前学習。3 年春は学年・クラスの団結づくりと、3 年間を見通した目標を決め、それに沿って各学年が計画を実施した。(◎)</p> <p>ウ・超過勤務月間 80 時間以上の教職員延べ人数平成 29 年度 64 名→52 名(18.8%減少)(◎)</p> <p>ア・地域の小学生対象の科学入門講座として、7/25 に夏休み理科実験教室を、本年度は本校校舎工事中であったため山一小学校を借りて実施した。化学分野「化学反応って?作って遊んで楽しもう!」生物分野「川の生き物、ミクロな世界の仲間たち」の 2 コースに分かれて 32 名が参加した。また、9 月に中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」(サッカー、硬式野球、バスケットボール、ソフトボール等)を土日ごとに実施。天候不順の中で 253 名が参加した。(△)</p> <p>イ・校長、教頭、PTA が山田東中学校区・地域教育協議会等へ 12 回参加した。また、地域フェスティバル(10/27)に吹奏楽部、ダンス部、PTA が参画した。地区公民館・地区文化祭への美術・書道の出展。その他、地域清掃等を行った。さらに、地域の小中の学校行事(運動会)等に参加し連携を深めた。(◎)</p> <p>ア・教育活動の情報発信として、総務部を中心に学校説明会(府立高校合同説明会、本校説明会、塾説明会、中学校説明会等)を全 20 回実施することができた。特に、本校での説明会を 10/27 と 11/17 の両土曜日 2 日間に実施したが、外部からの参加人数は平成 29 年度 1589 名→1898 名(311 名増加)であった。(◎)</p>